

知働化研究会第2回(2009年10月15日)

# プログラマの戒

時本永吉 @ NSD  
eikichi63 @ exekt-lab.org

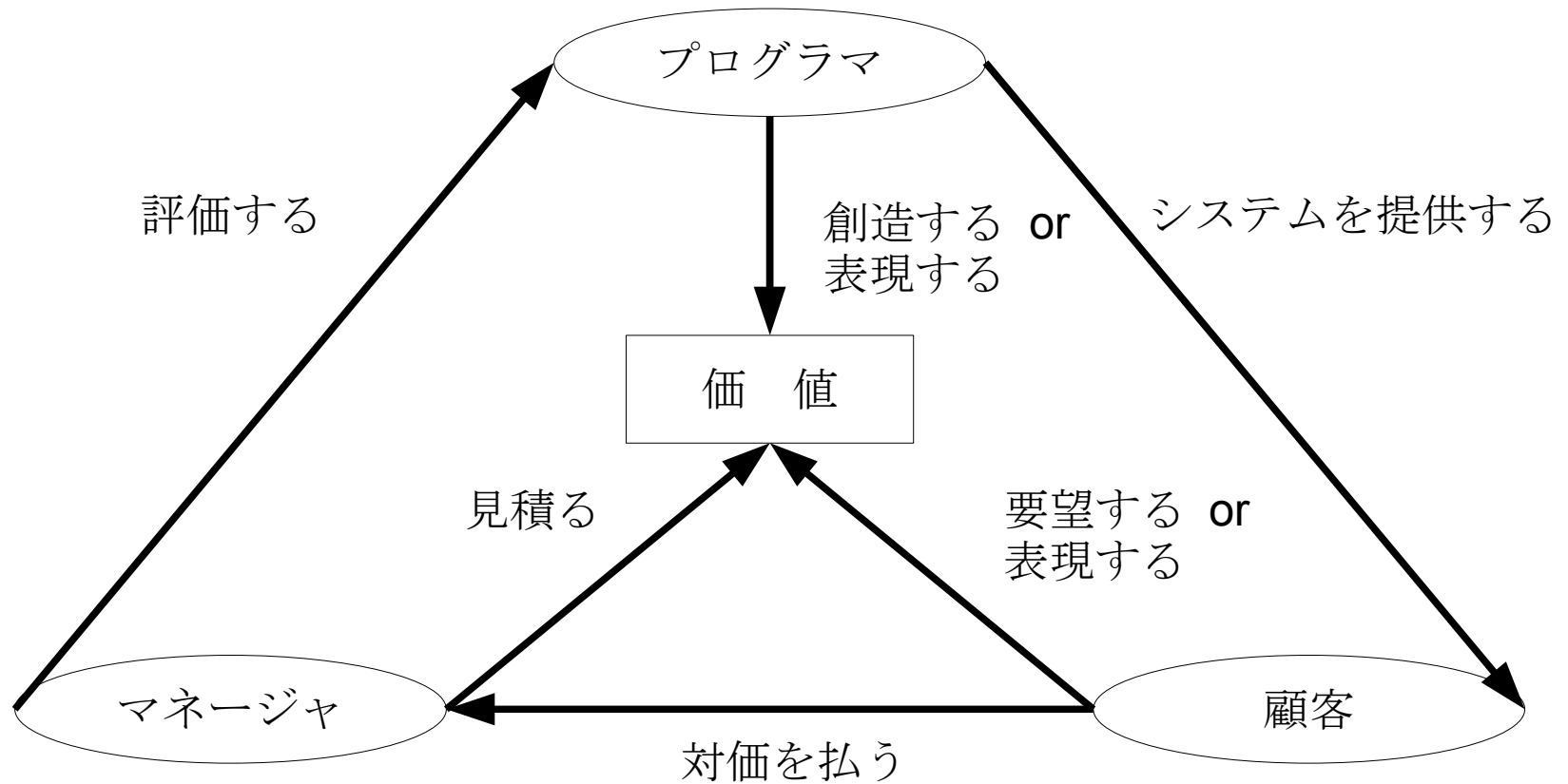
# 知働化

- 今まで聞いたこと
  - 人働説（人月）→知働説（価値）
  - 知で表現・評価すること

# 知働化のイメージ

- 言い換えると
  - 知の表現（知恵の知識化）
    - 表現された知を認識・評価できること
  - 人月でなく価値で見積もるための根拠
    - 価値の創造・評価を共有するための方法

# 価値の共有



# どこから手を付けるか

- プログラマ→顧客
  - 顧客の欲求を満たす
  - プログラマの価値と顧客の価値の共有
- 顧客→マネージャ、マネージャ→プログラマ
  - ここで価値の共有ができるように（プログラマの成果を評価できるように）プログラマは振る舞わなければならない
  - プログラマ間でしか通用しない表現をしてはならない（プログラマ間でも通用していない？）
  - 「見える化」の適用ではなく「私を観て」と振舞う

# プログラマのしていること

- 色々な方法論を活用して問題を解決する
  - 構造化、オブジェクト指向、アジャイルとか
    - 暗黙知を共有する
  - 行動できていたか？理解できていたか？
  - あるいは、できて当然だったことでは？
    - 「方法論」という言葉に振り回されていないか？
    - 「いろんなやり方で対応できる」が評価対象？
      - 「いろんなことに対応できる」が本来評価すべきことだが、モノ（第三者の評価を基準とするもの）の有無が評価基準（セールストーク）になっている

# 評価される世界

- 他者から評価される自分
  - いろんなことができなくても評価される
  - いろんなことができても評価されない
- 自身から評価される自分
  - 他人に評価されれば満足？
  - 法的に、倫理的に問題にならないければ問題ない？
- 様々な観点、様相

# 価値の評価

- 同じ価値を評価する
  - 価値を共有するための暗黙知の形成
  - その上でプログラマがやるべきこと
    - 法や倫理（律）は状況で変わる
    - 道徳（戒）はそもそもあるべきこと
      - 考え方の基準となるもの
      - この欠如は色々な考え方（方法論など）の理解を妨げる
      - 状況の変化に対応できないし、変わるための勇気が持てない
      - プログラマとして生きる覚悟
    - 「プログラマの戒」を定める



# プログラマの戒

- 不定義
- 不問題
- 不々出来
- 不複雑
- 不動不覚悟

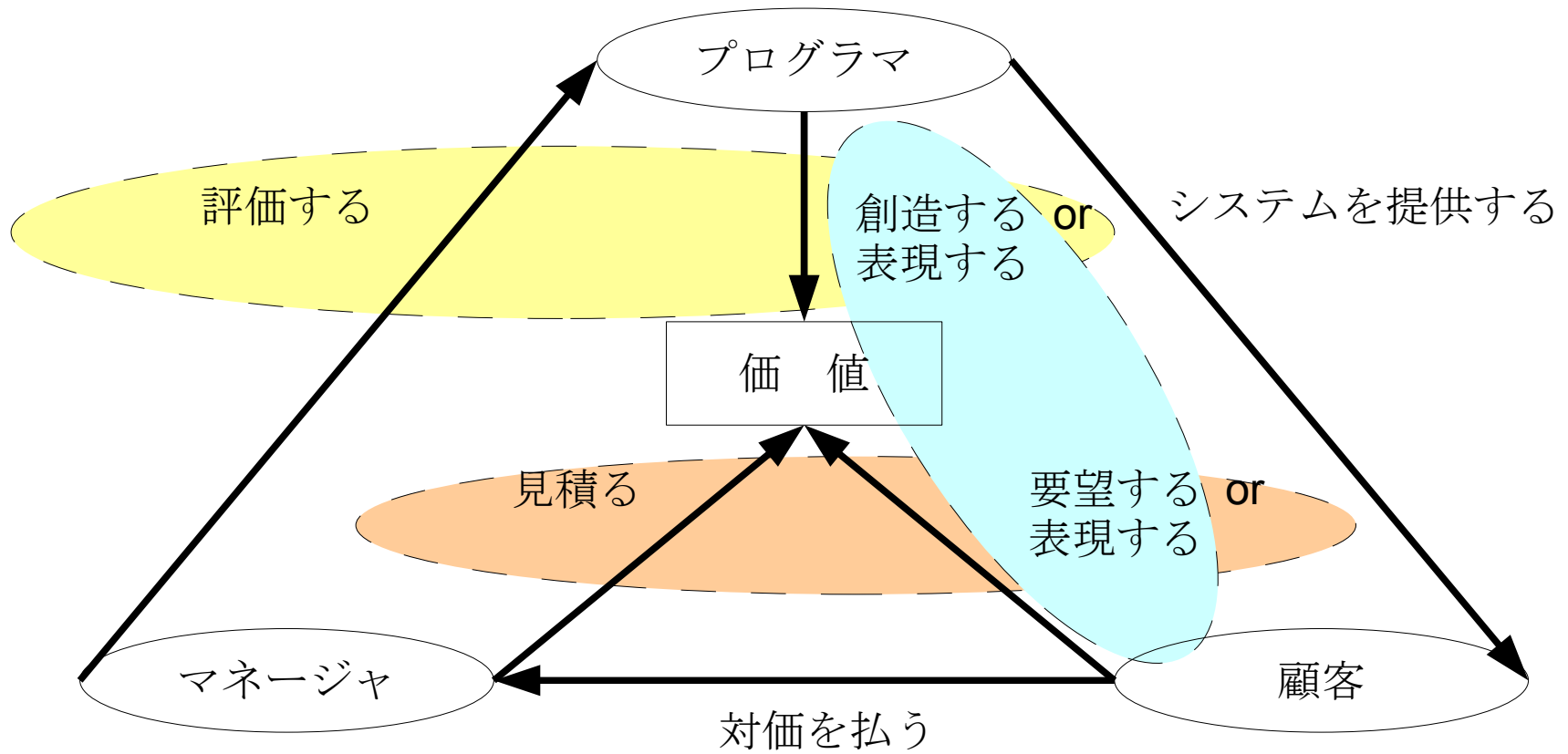
# プログラマの戒

- 不定義（定義してはならない）
  - 自身の様相でしかなく、文脈や状況（合意形成）が意味を決定する。
  - 定義された方法論を適用することに意味はなく、方法論を利用することにより意味が確かなものとなる。
  - 定義したもの（システム）では、それを求めた意図（欲望）を満たすことを望んでいる。定義は変えるものではなく、意図・表現を変えたときに変わるものでしかない。相手の様相を捉える。
- 不問題（問題としてはならない）
  - 問題として認識したなら、そのように感じた原因を解決すれば、問題でなくなる。なぜ問題のままにしておくのか。
  - 因から果は導かれない。因（根本原因）を明確にするだけでなく、縁（間接原因、なぜそのようにしたのか？、意図）を明確にする。

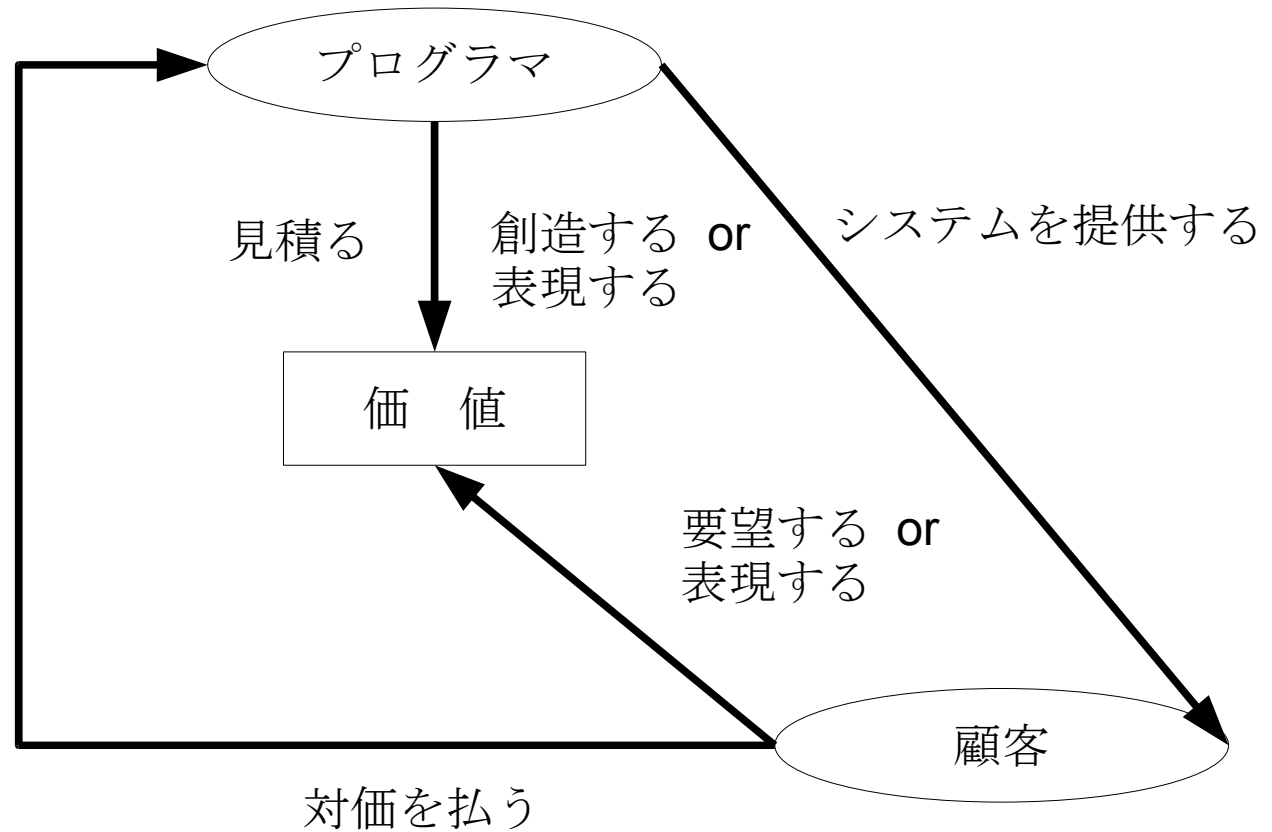
# プログラマの戒

- 不々出来（出来ない、としてはならない）
  - 「出来ない」とは何らかの理由により、自身が「やらない」と決めた結果にすぎない。「出来る」とは「やる」と決めた結果にすぎない。そう決めた心の動きを捉えることに意味がある。「仕方がない」という言い訳をしてはならない。
- 不複雑（複雑にしてはならない）
  - 自身の思い込みが介入するから、物事が複雑に表現されてしまう。あるがままをとらえなければならない。同様に、自身の思い込みが介入した簡略化は物事を曲解し、情報を欠如させる。
- 不動不覚悟（覚悟のない行動をしてはならない）
  - 自身のやりたいようにやる。その結果生じるすべての事象に向き合う覚悟を持つこと。ミッションをクリアするには目先のことを解決するだけではない。問題を解決するとは、問題の中の問題も解決することを含む。

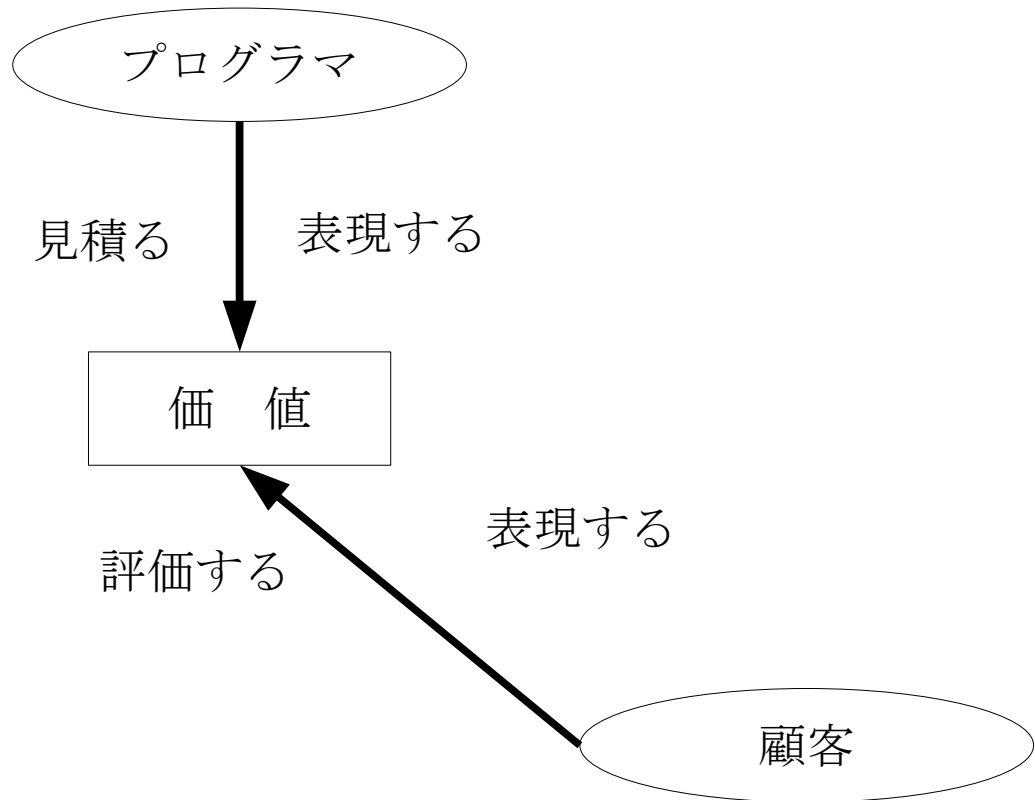
# 価値の共有



# 価値の共有



# 価値の共有



# 今後の活動

- 価値の唯識図の整理
  - プログラマの遷移
    - 第1段階：なんちゃってプログラマからの脱却
      - プログラマの戒
      - 千の言葉より一句当千となる一という言葉で表現
    - 第2段階：サラリーマンからの脱却
      - プログラマと顧客の価値共有
    - 第3段階：人月からの脱却
      - 顧客とマネージャの価値共有
      - マネージャとプログラマの価値共有

つづく